

占いの玉手箱

竹村亞希子

●目尻の上がり下がり——目尻が上がっているか、下がっているかもチェックが必要で、目尻の上がっている人は、気性が激しく負けず嫌いの性格。

他人に対しても批判的で、失敗に対しては、自他共に過失を許さない潔癖な性格の持ち主。ただし、世話好きな一面もあり、付き合ってみると意外にいい人かも知れない。

「少し上がりすぎかな」というのは要注意で、とても嫉妬深かったりも。

それでは下がり目の場合はどうなのか。「温厚で篤実」という言葉が、まさに的確に当てはまる性格で、他人に対してはとても親切である。マイホームパパだったり、スローモーであったりするものの、概ね好人物と言えるはず。とはいえ、あまり目尻が下がりすぎているのは、「単なるスケアーベーパー」

間」で終わりそうだが・・・。

●出目と奥目——「出目」と「奥目」の場合はどうなのか。いわゆる出目と呼ばれる人は、男難女難の相ありと言われ、夫婦関係に要注意というわけだ。奥目の場合は神経質だと思ったほうがいいだろう。

●象目——切れ長の目の持ち主は、思考力に長けるものの、少し陰気な性格が気になる。人相学では「象目」と呼ぶ。

●角眼——かくがん。

上瞼はまっすぐなのに、下の瞼が三角形の目である。

この目の持ち主は、巧言令色。表面的には情熱家に見えてしまうから、かえって危険な人物と言えそう。



まとめ

目の捉え方についてのまとめをしてみよう。目に力がある人は、運氣が盛

んである。このことは確かである。目の動きが元気な人もまた同じ。落ち着きなく絶えず動く目の人は、決断力のない人であり、信用してはならない。黒目に煙のようなものが見られる人は、近くトラブルが発生する暗示あり。要注意。白目の部分が煙がかかったようならば、やはり近々に体調を崩すとか、事故に巻き込まれるといった警報であると思っただけではない。苦労ばかり多くて、なかなか実りが得られない低調な時期だと考えて対応することをお勧めする。

その人の現在の運氣がもっとも顕著に表出しているのが、目。まずは、目から見極めてみよう。



竹村亞希子

占いの玉手箱代表。占いをビジネス化、イベント企画、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの占いコーナー、講演、執筆など多彩にこなす。講談社『フライデー』では、創刊以来占いのコーナーを担当。また88年岐阜未来博の「世界古い館」の企画プロデュースは有名。創立以来、多くの経営者を観てきた経験から「ツキの人相、チャンスをつかめる人相」を見極める達人になる。占いのスタッフは30名